

サルトリイバラの簡易落葉処理法

1 情報・成果の内容

(1) 背景・目的

サルトリイバラは、実付き枝物として秋冬期は葉を除去した状態で出荷され、生け花等に利用される。しかし、手で葉を除去する場合の所要時間は150 cmの枝で1本あたり10分以上と非常に手間がかかる点が問題であった。そこで、乾燥および浸漬処理の組み合わせによる省力で大量処理が可能な簡易落葉条件を明らかにした。

(2) 情報・成果の要約

- 1) サルトリイバラの簡易落葉処理法は収穫後生け水に漬けず、日陰（常温の室内）でブルーシート等を用いて覆い、2日間自然乾燥する（乾燥処理）。
- 2) その後、切り口に水切りおよび十字に切り込み（以下、切り戻し）を入れ、美咲ファーム BC（OAT アグリオ(株)）500 倍液に1～2日間浸漬する（浸漬処理）。
- 3) 浸漬処理終了後、切り枝を引き揚げ、葉を手で軽く引っ張る程度で全葉の9割程度が落葉するが、実はほとんど落下しない。
- 4) 簡易落葉処理を行った切り枝において、出荷を想定したシミュレーション後の切り枝品質の低下はみられなかった。
- 5) サルトリイバラの簡易落葉処理法は未熟期から過熟期収穫枝において利用可能である。

2 試験成績の概要

- (1) 2021年10月5日、19日、11月2日および16日の各時期にサルトリイバラを収穫して常温の室内で一定時間乾燥後、切り戻しをして、美咲ファーム BC500 倍液に漬けた（図1）。
- (2) 調査は、処理後の切り口を再度切り戻し、美咲ファーム BC500 倍液2～3ℓをいれた花筒に生け替えて、7日間の落葉数および落果率を調査した。また、出荷を想定したシミュレーション後の切り花品質を調査するため、簡易落葉処理後に残葉を全て除去し、常温で収穫後14日目まで静置し、果皮色および萎れを調査した。
- (3) 未熟期から過熟期収穫において簡易落葉処理の処理効果が高かったのは、「乾燥2日＋浸漬1日」および「乾燥2日＋浸漬2日」であり、いずれも落葉率は6日目で90%以上であった（図2）。
- (4) 落果は無処理（乾燥なし＋浸漬なし）と同等であり、極僅かであった（データ未掲載）。
- (5) 簡易落葉処理を行った切り枝において、出荷を想定したシミュレーション後の切り枝品質は、全葉を全て手で除去した無処理と大きな差はなかった（データ未掲載）。

